

キク類出荷増加予測

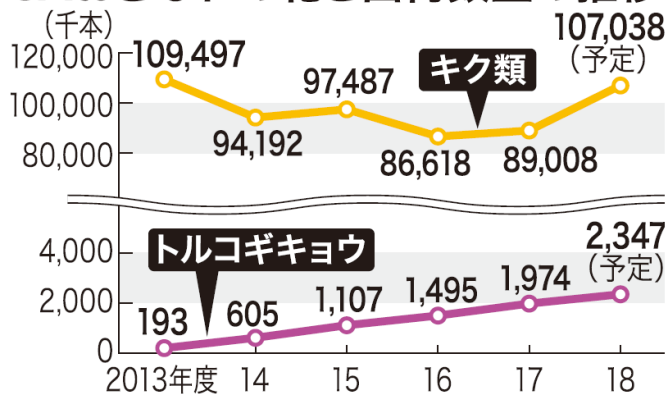
JAおきなわ18年度 彼岸期強化

JAおきなわ(大城勉理事長)は17日、キク類の2018年度の出荷数量、販売金額の見込みを発表した。数量は前年度比20・2%増の1億703万本、販売額は31・8%増の37億2564万円。12月の正月用キクは台風24、25号の影響で数量が28%減の1600万本となったが、

3月の彼岸向けが前年比15%増の3100万本、5億5600万円となる見込みで「全体では前年度を上回る」と予測した。小菊類は、JA販売高の約6割を占め、本数・金額ともに全国1位。正月需要に向けた12月出荷、彼岸用の3月出荷に加え、県外の端境期を狙

つた5〜9月(夏秋期)に生産の取り組みを強化してきた。

JAおきなわの花き出荷数量の推移



JAはあらかじめ値段を決めた値決め販売や、夏場の苗の安定供給が生産量増加に表れたと評価。担当者は「引き続き県産花きの生産拡大と農家所得の増大に取り組んでいきたい」と話した。県の戦略品目に位置付けられているトルコギキョウは、農家戸数、生産量とも年々増加。12月から本格出荷が始まるが、18年度は数量で18・8%増の234万本、金額で31・1%増の3億3300万円を見込んでいる。